

平成19年度

研究紀要

第21号

川崎市総合教育センター

はじめに

今日、社会の変化は激しいものがあり、価値観の多様化、国際化、情報化、少子高齢化などが急速に進展し、様々な教育課題が山積しています。このような状況において、子どもたち一人一人に「生きる力」を培っていくことが、これからの教育には一層求められています。

川崎市総合教育センターは、平成 19 年度の研究については、「かわさき教育プラン」の目標にある「一人ひとりがいきいきと輝く学習社会を創造する」などを受け、実践研究総括主題を「一人一人がいきいきと輝く川崎の教育の創造」といたしました。また、研究のキーワードの「自ら学ぶ」「共に学ぶ」「学び続ける」については、学びの基本的な姿としてこれまで通り継承し、実践研究を推進しております。これらの主題等のもとに、一層川崎らしさがにじみ出る研究を心がけてまいりました。

今年度は、「政策課題研究」「調査・基礎研究」「実践研究」「外部機関との共同研究」の 4 つの研究分野を設定いたしました。「調査・基礎研究」では基本的な視点として、教育活動及び児童生徒の実態に係わる調査研究といたしました。また、「実践研究」では基本的な視点として、一つ目に各教科等教育活動に係わる指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究、二つ目に各教科等の指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究といたしました。各研究会議では、実践研究総括主題・キーワード等を踏まえ、それぞれの研究主題を設定するとともに、調査・研究を進めてまいりました。

ここに、平成 19 年度に終結した各研究会議の研究内容を、研究紀要第 21 号としてまとめることができました。この研究紀要が、これからの皆様の授業や研究の充実・改善に役立つことができれば幸いです。忌憚のないご指導並びにご批正を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、それぞれの研究に対しまして、当総合教育センター専門員をはじめ多くの方々からご指導やご助言をいただきました。改めて深く感謝いたしますとともに、それぞれの研究にお力添えをいただきました関係の方々に厚くお礼申し上げます。

2008年3月

川崎市総合教育センター
所長 垣東 節夫

目 次

研究の基本構想及び取組	1
教育研究所連盟における発表	4
児童生徒の豊かな人間関係を育てるために ・ ・ ・ ・センター指導主事研究会議	5
幼児期の保育の充実と支援をつなぐ在り方を探る ・ ・ ・ ・幼児教育センター指導主事研究会議	23
教員のICT活用指導力向上のための手立て ・ ・ ・ ・情報・視聴覚センター指導主事研究会議	29
漢字を活用する力を育てる学習指導の研究 ・ ・ ・ ・国語科研究会議	35
自ら考え判断できる子どもを育てる社会科学習 ・ ・ ・ ・社会科研究会議	51
生活科における表現活動を生かした指導の在り方に関する研究 ・ ・ ・ ・生活科研究会議	67
音楽のよさや美しさを感じ取る力が育つ音楽科学習の在り方 ・ ・ ・ ・音楽科研究会議	83
第二言語習得の認知プロセスに基づいた内容中心教授法によるコミュニケーション 能力の育成 ・ ・ ・ ・英語科研究会議	99
生きる喜びを感じることができる道徳教育 ・ ・ ・ ・道徳研究会議	115

川崎市の子どもの実態と発達の段階に合わせた参加・体験型学習プログラムの作成 ・・・特別活動研究会議	131
コミュニケーション能力の育成をめざした指導方法の工夫 ・・・高校教育研究会議	147
教員の ICT 活用指導力の向上をめざすためのビデオクリップ集の開発 ・・・ICT 教育利用研究会議	163
通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童に対する支援の在り方 ・・・特別支援教育研究会議	179
子どもの成長発達を促す言葉かけとは ・・・学校教育相談研究会議	195
定時制高校生における自己概念及びストレス対処過程の特徴と効果的な指導の在り方 ・・・専門研修員による研究	211
中学校における教育相談の在り方 ・・・カウンセラー研修	217
たくましく生きる力をはぐくむ健康教育をめざして ・・・健康教育研究会議	223
幼児期から児童期へ育ちをつなぐ ・・・幼児教育研究会議	229
情報メディアを安心して利用するために ・・・情報モラル教育研究会議	235

